

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

おはようございます。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、1 番上田雄一の一般質問をさせていただきます。

今議会からクールビズということになっております。ネクタイ自由ということで、私もネクタイを外してこようかと思いましたが、うちのかみさんのほうから「あんた品のなかけんがネクタイくらいはしていかなば」と言われましたので、ネクタイを着用しての質問をさせていただきます。と思っております。

今回、私、武雄市の今後の可能性ということで通告をさせていただいております。中項目としては、スポーツ振興について、市民病院について、学校教育について、食についてという流れでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いいいたします。

最終日ということもありますので、早速質問に入らせていただきます。

最初に、スポーツ振興についてでありますけれども、教育長の教育に関する報告にもあり、もう既に皆さんも御存じだと思いますけど、今年度、県民体育大会の開催地が杵島・武雄地区になっております。その報告の中にも、今回の県民体育大会を契機に施設の改善を考えていきたいという趣旨のものがありませんでした。武雄市からもたくさんの選手が派遣されておるこの大会、ことしは地元開催ということで、恐らく地元の体育協会も気合いが入っているのではないかなと思うわけですけど、まず、これについてどのような整備を考えておられるのか、御答弁願いたいと思っております。

議長（杉原豊喜君）

浦郷教育部長

浦郷教育部長〔登壇〕

おはようございます。今、1 番議員のほうから質問がありましたけれども、昨日に議員の皆さんには、武雄市の教育ということで、今年度の教育方針を印刷いたしました資料を配付させていただいたところであります。

今質問がありました県民体育大会へ向けてということでもありますけれども、施設の整備等につきましては、御存じのように、当初予算等で各種の体育館を初め、そして白岩競技場、球技場、それからサンスポーツランド北方の修繕工事、そういうものを計上させていただいて、利用者の安全・安心のための社会体育施設であるようにということで整備をするということで考えております。そして、県民体育大会が武雄市で開催をされますので、例年より若干予算をお願いして、上積みさせていただいているところであります。また、修繕費につきましては、市民や競技者が安全にプレーできるようにということで、競技団体、それから指定管理者等々、各種団体と協議をしながら進めさせていただきたいというふうに考えているところであります。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

既存の施設の改善ということであるというような答弁だったかと思うわけです。これまでの議会でも、私もここでたびたび申し上げておりましたけど、これまでの質問で、白岩運動広場の時計というのもお願いしていたところ、早速対応いただいて、つけていただいております。私も先日利用させていただいて、今まで時計がなかったところで時計があるということで、練習等を行う上でも、今まではナイター照明をつけているときは、時間が来るとパトランプが回り出すわけですね。パトランプが回り出した時点で慌てて練習をやめ、試合をやめてグラウンド整備というような感じになるんですけど、やっぱり時計があるとなると、そういったのもいろいろこまかいを見ながらできるようになったわけで、これは非常に利用者のほうからも好評を得ております。あそこは夕方、ボール遊びをするために利用している子どもたちも結構いますので、そういう子どもも余り遅くならないうちに帰る目安にもなるので、非常にいいものだなとは思っております。ですので、そういう整備も常々心がけていただきたいなと。

ただ、毎度申し上げておるように、武雄にはやはりお客さんを呼ぶような施設がないということで、常々この席で訴えておりますけど、その際は予算がないとか財源がないというような答弁を多々いただいております。しかし、ここに来て政府の緊急経済対策による補正予算とか、さまざまな交付金が充当されるというようなことで、今議会、既に提案されているようでなかなかあれですけど、今後またこういう想定外の交付金 想定外というところもかかってくるんですね。こういう交付金等がまたあるようであれば、また今後、具体的にぜひそういう施設整備にも充当していただき、考えていただきたいなと思うわけですが、これについて御答弁をお願いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

浦郷教育部長

浦郷教育部長〔登壇〕

今議員が言われましたように、今度の臨時交付金、補正の中でも1つ計上させていただいております。今後、いろんな地域活性化、あるいは経済危機対策関係の臨時交付金等が出てまいりましたときには、その趣旨に沿って、内容等が合致するものがあれば対応できるように努力をしたいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

上田議員から数回の質問をいただきまして、さまざまのところを見てまいりました。やはり集客であるとか元気があるところ、健康であるところというのはスポーツ施設がきちんと

あるわけですね。それは上田議員のおっしゃるとおりだと思います。しかしながら、財源の話、予算の話がありますので、先ほどは浦郷教育部長から答弁をいたしましたとおり、何らかの見合う交付金なり補助金が来た場合には、それは考える。

それともう1つ、これは税収の確保でいえば、病院関連、これから多額の税収が入ります。そういった意味で、試算のとり方にもよりますけれども、年間で9,000万円、そして、これに関連してさまざまな企業がここに張りつくことになりますので、そういった意味からでも、今回の病院の議案というのは、まちづくりを進める上での大きな議案になります。そういったことで、そういった面から、税収の確保ということに関しても、ぜひ議会の皆さんたちの御理解、御協力をお願いしたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

スポーツ振興を訴えてきて、市長も同じような考えは理解できるということをいただきまして、非常にうれしく思っております。

今後、できればそういった体育施設、スポーツ施設の充実に関して、武雄市の体育協会、また利用者の団体、そういった皆さんの声をよく聞いていただいて、満足度合いを高められるような施設整備をぜひ考えていただきたいなど。現に武雄市柔道協会からも武道場の整備についてという要望が出されておりますように、これについては中学校の基本設計のほうにも含まれるという答弁をいただいておりますので、それについてはいいんですけど、ぜひそういった市民の皆さんのスポーツ施設改善については、ぜひよろしく願いいたします。

続いて、市民病院についてに入らせていただきます。

既に報道、また今議会でも質問があっているように、市民病院の移転先について、市民の皆さんの中には興味を持たれたり、不安に思われたりしておられる方が非常にたくさんおられました。武雄区の競輪場第4、第5駐車場が候補地となり、その後、断念され、最終的には東部開発地区ということで落ちつきそうであります。

これについては、先日の議会、今議会の9番議員の質問の冒頭にもありましたように、御船山のふもとにできなかったのが残念でならないというものもあり、これについてはさまざまな見解があると思います。私個人的には、このことについての見解は、ここにできなかったことがほっとしているような気持ちも持っております。というのは、私を含め、小学校の保護者の中には、やはり学校の横ではなく別の場所に設置してほしいという声が少なからずあったのは事実であります。これについては、病院が来ること、新病院建設についてはいいんだけど、学校の横じゃなかところにしてくれんやろうかという声を非常に多々いただいたわけでありまして。ただ、ここで誤解を招かないようお願いしたいのが、さまざまな憶測からかわかりませんが、学校の横ということで、小学校の育友会が反対しよるちゃ

ろうというよううわさ話まで出てくるほどでありました。ただ、育友会としては賛成とか反対とかそういうのではなくて、とにかく状況の把握に終始されておりました。

その場所についてですけど、私個人的には、市長のこれまでの答弁等をいろいろ考えていくと、やはり医療城下町とか、医療を中心としたまちづくりを目指したいというものがあつたことを踏まえると、武雄区の候補地を断念されたことというのは、私は非常にいい選択をしていただいたというふうに考えております。何より、やっぱり土地が狭いというのが気になる場所も要因の一つであって、やはり佐賀大学医学部の周りには、個人の開業医の皆さんとか、その他、店舗、事業所、とにかくいろんなものができ上がって、本当に栄えているなというような感じがするわけですよ。そういうのを考えると、やっぱりあそこの場所じゃちょっと土地が狭かっちゃんかかなというのもありました。

これ以外にも、学校については、音の問題とか、あと景観の問題とか、いろいろあるかと思うわけですよ。何より、ごくまれなケースですけど、やはり学校の横に設置となると、救急車両が入ってくるとき、救急車のドライバーというのはプロの消防隊員の皆さんとかが運転されているので、心配ないかなとは思んですけど、怖いのは、やはりそれ以外のドライバーの皆さん それ以外と言うとおかしいですね。やっぱり自分のことに置きかえて、いろいろ考えてみたわけですよ。例えば、私の家族でだれかが救急で運ばれたとなったときに、やっぱり何をさておき、まず病院に私は急行するだろうなと思うわけですよ。親であり、子どもであり、身内の人とかももちろんそうですけど、そういったときに冷静に自分が運転し切るかなというのはやっぱり怖いわけですよ。そこで登下校時間にたまたま遭遇したりしたときでも、やはり子どもたちの動きというのはどういうふうにするかわかんというのもあって、救急車が通って、車も慌てて来よんさるとかとなると、やっぱり心配で駆けつけたのにもかかわらず、2次災害というのも考えられんことはないんじゃないかなと。非常に私はそういうところを怖いなというのもあったわけです。

言い方は悪いかもわかりませんが、そういうことも踏まえて、今回、地権者の皆さんの同意がとれたかとれなかったかというような話が表に出ておりますけど、同意されなかった方というのは、学校のこととか子どもたちのことを自分のことを犠牲にしてまでも守ってくれたと私は感謝している一人です。ただ、もちろん同意された方というのも、これは個人の財産に伴うことで、さまざまな事情がおりになって同意された方もいらっしゃると思います。ただ、この方たちも、やはり武雄市がこういうふうにしたいと考えられているのであれば市の方針に協力しようということで同意されたというようなことだと思うわけですよ。だから、そういう協力しようという気持ちに対しても、やはり私も感謝の気持ちも持っているわけです。

今回の移転先についてということですけど、さまざまなことを考えると、結果的には東部開発地区に決まったということは、病院にとっても、武雄市にとっても、市民の皆さんにと

っても最良の選択に落ちつきそうだというふうな考えを持っておりますけど、これについての御答弁をお願いいたします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私のところにもさまざまな賛否両論の、議員であるとか市民の皆さんであるとか直接お越しになって、来られた方々の一人として上田議員もいらっしゃいました。本当にたくさんの方が来られておりました。そのときに上田議員がおっしゃっていたのは、先ほどるる御質問がありましたけど、子どもさんたちのためにということをおっしゃっていましたので、これについては、私はすべて これはもちろん私が決めるわけやなかとですね。池友会が病院の場所については決定するということになりますので、すべて池友会のほうに話を入れました、賛否両論含めてですね。その結果、池友会が早く本格的な医療を開始したいと。これは記者会見で鶴崎理事長が述べられたとおりでありますけれども、そういったさまざまな声を勘案して池友会が最終決定をされたというふうに理解をしております。

いずれにしても、そういったことでさまざまな意見を直接おっしゃるといふことについては、それはある意味、民主主義の正しいあり方だと思っておりますので、上田議員のその活動については、僭越な言い方ですけど、私は評価をしたいというふうに思っております。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

褒められたのかどうなのか、ちょっと一気に汗が吹き出しておりますけど、これについて、もしそのまま武雄区の当初の計画で断念が出てこなかった場合は、教育者としてどうするかというのを教育長に聞きたいなと思っておりましたけれども、これについてはやめておきます。

これについて、たくさんの市民の皆様役に立つような場所になると私は信じておりますので、そういう中で、1つお願いですけれども、建設工事とか、いろいろ今後絡んでくるかと思っておりますので、そのときはぜひ地元業者を使ってくれというようなところで、市のほうからも池友会のほうにぜひ要望として上げていただきたいなと思っております。

病院について今議会も多々いろいろと質問が上がっておりまして、いろいろ議論されていく上で、新病院の位置づけでちょっと整理したいなというところがあって、市民病院は1次から3次まで診る、24時間、365日受け入れ拒否をしない病院になるということで、その上でホームドクター制といいますが、かかりつけ医として1次においては可能な限り地域の開業医のところに行っていただく。その際、例えば、1次に該当するか、それ以外に該当する

かというのは利用者の皆さんがなかなか判断できんと思うわけですね。だから、とにかくかかりつけ医に行ってみようかなと、うんにゃ、ここじゃちょっと無理んごたるあれかなというようなときには市民病院のほうに来てくださいというニュアンスでいいのかなというふうに考えているわけです。

早期診療、早期治療というのが武雄は福岡とかに比べると意識が低いという答弁がありましたけど、何も武雄市民の皆さんがコンビニ診療しよるわけじゃなくて、やっぱりちょっとでもぐあいの悪かぎ、早目に病院に行って、早目に治すというのが大前提じゃないかなと。かかりつけのいつも行っている病院に行って、そこで治ればそれで万々歳という流れをつくるべきだろうと。今回、市民病院について、そういうとの病病連携というか、病診連携と、そういうふうな考えを、今までの答弁をずっと自分の中でかみ砕いていくと、そういう位置づけになるのかなと思っていますけど、ちょっと確認をしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

議長（杉原豊喜君）

古賀市民病院事務長

古賀市民病院事務長〔登壇〕

市民病院の位置づけですけれども、ただいま申されたとおり、私どもとしては1次から3次というふうに思いますけれども、1次につきましては、基本的には開業医の先生方に診ていただいて、それでできない部分につきましては市民病院で受けるというような形でこれまでも来ておりますし、今後もそのような形でできればというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

わかりました。

これはさきの議会でもちょっと私が質問させていただいておったことで、診療について確認といたしますか、要望を上げておりました。せっかく新病院ができるのであれば、やはり不可能だったことを新病院では実施してほしいということを伝えていたところであります。

1つは人工透析について、やはり武雄のほうでは人工透析が足りないということで、ぜひ新病院になるのであれば人工透析もやってほしいよということをお願いしておりましたが、まずこれについて御答弁願いたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

さまざまな医療関係者に伺うと、人工透析の機能というのは、手術、特にエマージェンシー、緊急手術には必要不可欠だということであります。したがって、市民病院がある意味、

緊急の手術、事故の後であるとか手術のときとか腎機能が相当低下しますので、そういった意味でいうと、今私が聞き及んでいる限り、人工透析の機能は拡充しなければいけないと。ごっといごっとい手術のあるわけじゃなかわけですね。言葉が適切かどうかわかんないんですけども、今、人工透析で苦しんでおられる方々にこれをきちんと提供するということは、それは地域病院としてのあるべき姿だというふうに思っておりますので、私もその話は聞いております。ですので、また私からも市民の声として市民病院に伝えたいというふうに思っております。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

手術のときとかはそうでしょう。それ以外に定期的に人工透析をされている方というのは、やはり1日越しとかいうふうな感じで、やっぱりずっと定期的にされているわけですね。どうしても今の状態だと、例えば、月、水、金とか、火、木、土とかというようなところで透析等をやられておると、透析さえすればぴんぴんしている、そういう人たちがどこか行きたいと、旅行とかに行きたいとなったときでも、やはりどうしてもそのペースを余りいじられないというのもあるみたいなんですけど、日曜日にできればよかとけねとか、そういう話もいろいろ聞いておりますので、ぜひそこは要望として上げていただきたいなと思います。

それともう1つ、先ほどから申し上げていますように、24時間、365日の救急体制で市民の皆さんの安心・安全を担保していただくように行われている今回の病院についてでありますけれども、やはり24時間、365日の体制というのが該当しない世代というのがいるわけがあります。その世代というのが、やはり子どもたちであるわけです。

そこで、お願いしたいのが小児科の設置であります。これは全国でも勤務医の中で小児科医というのが不足しているというのは重々承知しておる中で、その上での要望でありますけれども、さきの議会でも申し上げておりましたように、時間外の小児科設置が何とかならないものかというものであります。これは何も新病院に24時間、365日の小児科を設置してほしいというものではなくて、市内の小児科を個人で開業されている皆さんの営業時間外というふうなところで考えておるわけです。

重複しますが、新病院のうたい文句が24時間、365日診療ということですけど、やはりこれに該当しない子どもたちがいるわけです。最も大事にされなければならない子どもたちの診療体制というのがやはり整っていないわけでありまして。個人の開業医の皆さんにお願いするというのもやはり無理があるわけです。病病連携、病診連携のモデルケースとして、例えて言うなら、小児救急じゃなくて、夜間小児とか緊急小児という感じで、開業医の皆さんがやられている、例えば、朝9時から夕方5時で、一部の開業医の皆さんもできるだけそう

いう地域の声に対応していこうということで、診療時間を夜8時まで延ばしたりとか、曜日によって8時まで診ますよとか、9時まで診ますよとかということをやっている小児科の皆さんもいらっしゃいます。そういう中で、例えば、夜の9時から朝の5時までとか、子どもたちの医療の空白の時間を少しでも新病院で埋めていただくようなことができないかなど。先日も中学生の子を市民病院に連れていったところ、やはり内科が難しいということで、嬉野のほうにということであります。子どもは往々にして夜中に発熱をしたりとかいうのがあるわけですね。だから、そういうのをとにかく新病院で何とかできないものかというところをもう一度行政のほうからもぜひ強く要望をしていただきたいなと思いますけれども、これについて御答弁をお願いいたします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

まず、現実問題としては不可能であります。というのも、議員御案内のとおり、小児科医が日本の場合は世界、OECDと比べても決定的に不足をしているということでもあります。今、厚生労働省の 私はこれは正しいと思っています。国には文句ばかり言いますけれども、正しいと思っているのは、少ないお医者さん、特に小児科医の皆さんたちは拠点の病院になるべく集めようということをされておりますので、平たく言えば、武雄市西部の場合は、西部地区の場合は嬉野医療センターに集めようという動きがあるというふうに拝察をしております。これはこれで、現状の置かれた中で仕方のない話かなというふうに思っております。

そして、私にできることは、市長会であるとか、今、厚生労働省にもいろんなつながりができてきましたので、小児科医と産婦人科医ですね。特に小児科医、内科系をふやすようにしてほしいということは、これは言わなきゃいけないというふうに思っております。だんだん舛添大臣もわかってこられております。

それで、今、私たちがあとできることとすれば、医師会との話し合いの中で、新病院の小児医療については、外科系の小児救急医療は行えます。特に、ひどい場合があります。これについては、池友会が周産期医療センターを福岡に持っていますので、時速230キロのヘリコプターできちんと運ぶこともできますし、こっちでどうしてもしなきゃいけないということになれば、周産期医療センターのドクターがドクターヘリでこちらに来て緊急手術をしていただくというふうになっています。そして、聞く限りにおいては、これは医師会の人に聞きましたけれども、例えば、子どもが腸捻転になったときに、これは内科なのか、外科なのかといった場合には、これは救急ですぐやらなきゃいけないということになりますので、そういう本当に救急、緊急のことが市民病院でも今できます。これは旧来の市民病院ではできなかったことなんですね。ですので、反対をされている方々に対しても、その部分はぜひ評価をしていただきたいというふうに思っております。



その上で、休日急患センターの初期の小児救急医療機関を私たちとしては、市民病院としては支援をするということであります。そして、御懸念の一般の小児医療については、小児専門病院、小児中核病院等と連携するということをぜひしていかなければいけないというふうに思っております。

いずれにいたしましても、現状では西部地区での嬉野医療センターを拠点とするということになっておりますけれども、繰り返しになって恐縮ですが、とにかく小児科医をふやしてほしいと。特に内科系をふやしてほしいということについて、そして、医療の点数も含めてですよね、ふえるように努力はしていきたいというふうに思っております。そういった意味での議員と我々との問題認識というのは一緒なんですね。ですので、できることはすぐやる。できないことについては、制度改正を含めてきちんと要望していくということで考えております。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

る御答弁いただきまして、わかりました。ぜひそういう要望というのを上げていただきたいなと思っております。

やはり勤務医の少ない状況というのは、いろいろインターネットとかでも検索すればすぐわかるような状況でありまして、石川県の七尾市というところにある恵寿総合病院でも、これまではずっと小児科診療が行われていたのにもかかわらず、やはり勤務医の少ない現状から、小児科の勤務医 2 名による夜間のみ的小児科を実施されているようです。今、武雄においての状況といえ、今までなかったわけで、ここのプロセスというのはちょっと違うわけですけど、ぜひこういう恵寿総合病院のように夜間だけでも小児科ができるようになればなということをお思っておりますので、ぜひよろしく願いいたします。

続いて、学校教育についてであります。

さきの 3 月議会でも申し上げましたように、高校再編による教育環境の中で、高校が足りないということを質問させていただきました。そのときの答弁の中でも、ひずみについては私も理解できるというような答弁をいただいておりますけど、そのとき、教育長も市長もともに私が訴えている内容については十分な御理解を示していただき、県のほうへ声を届けると 3 月議会でおっしゃっていただきましたけど、これについて、今どのような状況になっているか御答弁願いたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

浦郷教育長〔登壇〕

事あるごとに武雄市には高校が足りないことを訴えるようにという御質問、御意見を3月いただいたところであります。皆様御存じのとおり、動きとしては、少子化の中で学級、あるいは学校を減らす方向というのが非常に大きくあるわけでありまして、平成33年ごろがピークになるかと思えますけれども、先般お話しいたしました佐賀農業高校、杵島商業高校の再編につきましても、志願者が少なかった場合はさらに再編について協議を始めるというようなことが続いている、そういう減らす方向にある中で、高校をふやすということは現実には非常に厳しいことがあるということは踏まえた上でのございます。

前回までと変わった状況としましては、杵島・武雄地区以外から青陵中学校への入学者が前年までよりも多かったと。これはいろんなとらえ方ができるわけですが、そういうことがあって、22年度は武雄高校の1学級増とかいう話も前回いたしたと思えますけれども、ただ、将来的に見た場合は、やはり一時的なこととしてしか考えられないだろうと。その次の年度はまた7学級に戻るということをございます。

全体的なそういう学級減、あるいは学校再編という動きの中でありますけれども、片方で市内中学校からの進学状況の動向、あるいは高校通学の経費等についても調査を行っているところをございます。例えば、現実に嬉野高校に40名から50名の生徒さんが通ってあるわけですが、やはり1カ月2万円近くの定期代がかかるわけをございます。そういうことまで含めまして、非常につかみにくいところもございますけれども、あるいは遠距離を通学で通っている人とか、こういうことについて継続して調査を行いつつ、先ほどありましたように、要望すべきことを整理した上で話をしていこうと。もちろん再編準備室等に考えを聞きながらやっているというところをございます。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

先般、東京に出張していたときに、文部科学省の同期と懇親する、懇談する機会があって、文部科学省が一番頭を抱えているのが、今後、やっぱり急速な、自分たちが思っている以上に少子化が進んでいるということで、これはオールジャパン、全国で見ただけに、私学も含めて減ると。文科省にはいつでも机 病院の場合はベッドかもしれませんが、あっちの用語では机と言うらしいんですけど、机を返上したいと。机もあれなんですね、一応承認事項なんですね。それを返上したい、返上したいというので文科省には話が来ていて、これがぐあい悪くなるぐらいに困っているという話を私も文科省の担当の人から聞きました。

今後、それを考えた場合には、恐らくまた学校の再編成が私学を含めてあるのかなということを、全国で起きていることが武雄で起きない、佐賀で起きないということはあり得ませんので、この動きにどう対処をしていくかということは数年前から動く必要があるだろうなというふうには思っております。そういったことで、もちろん学校をふやすということもあ

るんですが、維持をするというところまで問題が複雑になってきておりますので、どうしたもんだらうかということは今思っております。

本当に我々が3月議会で議論していたときよりも、さらに話が深刻になっているなどというのは、文部科学省の企画官連中と話しているときに、それは感じたことは御報告させていただきたいと思います。

いずれにしても、机の維持に向けて佐賀県全体としても考える必要があるだろうというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

そうですね、少子化のことはやはりあるかと思えます。ただ、先ほども話があったように、再編、統合というのはさらなる加速度を増して行われるということであるならば、その際に便乗して、こういうことを言うと不適切かも知りませんが、佐賀農業とか杵島商業がまた統合するというような話が出て、そういうふうな全体的な統合話が出たときには、武雄のほうに横取りするぐらいの覚悟を持って取り組んでいただきたいなという気持ちを持っております。実は前回の議会でこの質問をさせていただいたときも、その後、多数御意見を寄せていただいたわけです。「うちの子どもをやる学校がなかやっか」とか、いろいろ本当に保護者の方というのはこれについて不安に思われております。「そもそも武雄青陵高校が発足したのは、武雄高校のマンモス化の解消やるうが。それば統合するとならば武雄高校の定員をふやさじゃ」とか、「家政科とかあった時代の武雄高校に戻すぐらいの覚悟を持ってせんぎいかんとやなかとか」というような叱咤激励を本当にいただいておりますので、ぜひそういう保護者の切実な声を大事にさせていただきたいと思えます。

続いて、学校の改修工事について、武雄小学校、武雄中学校の工事というのは、これまでいろいろと答弁されておりました。今年度、基本設計を行われて、一部実施設計まで入って、来年度には工事が行われるというような判断でいいわけですね。

その際に、校舎、もちろんグラウンド、体育館、いろんな工事によって、子どもたちにいろいろなことが想定できるわけでありまして。容易に考えると、資材置き場とか建設車両置き場とか、そういうのはやはりグラウンドを利用したりとか、学校のあいたスペースを利用したりというようなことになるんじゃないかなというのは明白であると私は考えているわけです。ただ、そうなった場合に、学校にとっては長い歴史の中の1年、2年の話になるかなとは思いますが、やはりその子どもたちにとってというのは、何より最上級生にとっては、やっぱり学校の最後の年ということで、本当にいろんな思い出を残したい重要な年になるんじゃないかなと思うわけですよ。グラウンドが使えないとなると、運動会とか部活動というのができなくなったりというのがあって、そういうのもぜひやっぱり最後の思い

出というのは、各学年、分け隔てなく何とかいろんな思い出をつくってほしいなという気持ちを持っておるわけですけど、これについて十分な配慮をお願いしたいんですけども、どのように考えられておるか御答弁願いたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

浦郷教育部長

浦郷教育部長〔登壇〕

今、議員がおっしゃられたように、小学6年生、中学3年生ということで、非常に重要な節目の学年に当たられる児童及び生徒に対して十分な配慮をとということだというふうに思っております。

何回となく申し上げておりますように、今年度は基本設計と一部実施設計を行うわけでありまして、武雄小学校につきましては大規模改造、耐震補強が主でありますので、これは夏季休業中を挟んで、できるだけ児童の皆さん、それから授業に支障がないようにということで考えていきたいというふうに考えています。

ただ、武雄中学校の場合については改築という形になりますので、これが工事期間そのものが1年を越すというふうな時間になります。そのために、基本設計の中で、生徒の動線、あるいは工事の動線、それからプレハブの設置場所、全体的な設置を考えて、できるだけ生徒の皆さんには、授業及びクラブ活動、実態として影響が少ないようにということで設計をしていきたい。そして、建設検討委員会、これは学校側、それから地元の役員さん、PTAの役員さん、当然、設計業者、それから建設課、教育総務課入って、いろんな意見、そしてシミュレーションをしながら設計させていただきたいというふうに思っております。ぜひこのように御理解をいただければと思います。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

ぜひ十分な配慮をお願いします。やはりことしの夏はことししか来ないわけであって、中体連も間近に控えて、今の中学3年生というのは本当に目の色変えて練習をしておられます。どの部にもこれは共通して言えることだと思いますので、来年、再来年、またその次というようなところで、やっぱりいろんな弊害が起きては困ると思いますので、武雄市のスポーツ施設をぜひこういう中学校、小学校の社会体育なり部活動なり体育の授業なり、最優先に優先権を与えてやって対応をしていただきたいと思いますなと思っておりますので、ぜひよろしく願いいたします。

それと今議会にもちょっと関連するところではあるんですが、中学校での外部指導員についてちょっと質問をさせていただきたいなと思っております。

今、中学校では生徒指導でもいろんな話が耳に入ってきます。中学生ともなると、いろん

な個性がある中で当然といえば当然であり、そういう中、学校の先生の皆さんも大変だと思えます。マンパワーが足りないという話もよく耳にはしております。例えば、学校を飛び出した子がいたとしたときに、先生はその子を追いかけるべきなのか、それとも残った子どもたちにいるんな指導をしていくものなのか、やはり1人だとなかなかどっちもというわけにはいかないわけで、これについては、いろんなケース・バイ・ケースで状況によってはどういうふうというようなことで、どれが正解というのも難しいものかなとは思いますが。学校の授業以外にも仕事量というのが大変多い中で、例えば、放課後などには不登校の子どもさんをちょっと訪問したりとか、本当に学校の先生は授業以外の時間というのばたばたされているというような現実であります。そういう中でも、部活動の顧問というようなこともあって、多忙な日々を送られていることではあります。

そんな中、今議会にも上程されているような部活動への外部指導員についてであり、外部指導員というのは、地域の皆さんの力をかりながら子どもたちを育てていくという、これこそ、私は学校、保護者、地域の三位一体の教育であるという考えの中で非常にいいことだなと思うわけですが、これについて質問は、外部指導員というのは資格というか、そういった基準というものが何か設けられているのかどうなのか、御答弁をお願いいたします。

議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

浦郷教育長〔登壇〕

学校教育につきまして、いろんな面で御理解いただきありがとうございます。

お尋ねの外部指導者でございますが、外部指導者のよさといいますか、要するに非常に高い専門性を持っておられますので、生徒も非常に感動して、スポーツに親しむ、あるいは長期的に見ていただくと。教職員は異動があったりするわけですが、割と長期的に見ていただける。あるいはスポーツに限らず、地域でも顔を合わせたりされるわけで、全人的に触れ合っていていただくと。そしてまた、それだけの技能を持っておられるわけで、地域のスポーツでも貢献していただいていると。非常に学校にとっても、お話にあったように、非常に多忙な状況がありますので、助かっているという状況でございます。

ただ、条件という条件はないわけですが、中学校の体育連盟は、技術指導はもとより、教育的な識見を備え、年間を通して当該校の指導に当たっていただくというようなことを原則的として書いております。条件といえば、そういうことになるかというふうに思います。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

ぜひそういうふうな外部指導員というのは積極的に活用いただいて、学校、家庭、地域、

3者で一体になって子どもたちの学力向上、運動力向上を目指して頑張っていたきたいなと思いますので、積極的な活用をお願いしたいと思います。

最後、食について入りたいと思います。

食育基本法が平成17年6月10日に成立し、丸4年が過ぎようとしております。さまざまな地域で活発に活動しておられる様子というのは、ケーブルワンさんや新聞等でもいろんな事例の紹介が行われており、食育の重要性というのが認知されてきたあらわれだと思います。ただ、残念ながら、興味のある方は物すごく御存じであって、興味のない方というのは食育って何というような感じで、やはり両極端のような感じがするわけですね。先日もいろいろ話をずっとしよった最後の最後になって、「食育って何ですか」という話になって、「今まで何を話聞きよったとや」というようなことで話になったわけで、実際いろいろ説明をして、「今、庁舎にも食育課という課のあるとよ」というようなところを話したところ、びっくりされている感じであるような始末であります。

そういう中で、現在、武雄市では食育に対するさまざまな具体的な動きというのが行われているかと思うんですが、どのような事業を行われているか御紹介いただきたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

藤崎こども部長

藤崎こども部長〔登壇〕

お答えします。

武雄の食育の取り組みにつきましては、平成19年度に作成しました「がばいよか武雄の食育推進計画」に基づき、平成20年度から22年度までの3カ年計画で事業を実施していきます。今年度は2年目となりますが、大きな2つの柱があり、それぞれの事業を平成20年度から実施してきたところであります。

2つの柱の1つ目が五感を使った食育体験プログラム、これにつきましては、「みる・きく・さわる・かぐ・あじわう」を使っの武雄ならではの食を楽しむ武雄の食育寺小屋の名称で、5つの体験型プログラムによる事業を実施しております。対象者は小学生、中学生とその保護者でございますけれども、この事業に平成20年度に参加していただきました人は3,159名の実績を上げているところでございます。

2つ目の柱といたしまして、ライフステージにおける食育の展開を行っております。これにつきましては、妊娠期、乳幼児期、学童・思春期、青年・壮年期、高齢期の5つの段階でとらえ、取り組みを展開しているところでございます。それぞれのライフステージによって食のあり方が異なるため、その時期に合った食の知識や健全な食生活の習慣化を目指し、関係各課と協力し、取り組みを実施しております。また、未来課とも協力して、子育て中の母親を対象に栄養士が調理実習と講話で食の正しい知識の普及と相談を実施しております。この柱で参加された方は20年度で延べ1万7,600人というふうな実績が出ております。

その他、食育まつり等も参加して食育推進に、平成20年度につきましては合計で2万3,300人程度の参加をいただいております。これにつきましては、ありがたく思っているところでございます。

以上でございます。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

これはやっぱり食育が進むか進まんかは男次第、それと首長次第と思います。というのは、私はグーグルの関係者から言われたのは、「武雄市」「市長」とアクセスするときに、「リコール」と「料理」というふうに出てくるらしかですね。ですので、そういったことからすると、ああ、首長というのはそういうメッセージを発せるんだということで、私はベネッセに料理ブログを持っていました。これもちょっと選挙があったので、もう閉じましたけれども、そのときに1日4,000アクセスから6,000アクセスがあるわけですね。私の持っている「武雄市長物語」よりもアクセス数があると。だから、世の中の関心というのはそうなんだということだったんです。

そして、これはケーブルワンを通じて多くの市民の皆さんがごらんになっておられると思いますが、男子ぜひ厨房に入って、そして料理をしていただくと。私も趣味の一つとして、本当におもしろいんですね。そして、自分でちょっと油を減らそうとか野菜をふやそうとか、そういうことで自分の健康管理もできますし、そして、やっぱり何よりも配偶者が喜ぶわけですよ。家族が喜ぶということで、先ほど古賀副市長もあしたから始めるということを力強くおっしゃっていただきましたので、そういったことで男性がどんどん広めるということで、ぜひ上田議員にもその一翼を担っていただければ、食育というのは言葉じゃなくて体感として、実感として体に入っていくんだなと、アピールができるんだなというふうに思っております。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

本当に市長が今おっしゃるように、やっぱり男性が入っていかないとというのは本当に私も感じるわけです。食育課の取り組みの中でも、実際、武雄の食育寺子屋事業というのは本当にいいもんで、実は私も子どもと一緒に参加させていただいているわけですよ。参加して、とにかくやっぱり農業体験とか、一切農業に縁遠い人間でしたので、何もわからなくて、子どもと一緒に、子どももわからん、私もわからんというような状況で参加させていただいて、初めて学ぶことというのはいっぱいあったわけですね。参加するにつれて、まずうち

でも変わったことが、車で子どもを乗せて移動したりしているとき、やっぱり家族で畑の話にしかならんわけですよ。「あそこの畑もあるよ、あそこもあるよ」と。しまいには、私よりも子ども 子どもといっても2年生の子どもの方が詳しくて、苗見ただけでも、「あそこにもキュウリの植わっておるよ」というごたるふうな話ばするわけですよ。私も何となくわかってはきているつもりではおるんですけど、「あそこの畑広かね」とかというて、やっぱりそういう話ばかりするわけです。うちも食育寺子屋でお土産にもらった苗を持って帰って、うちのほうでプランターを用意して植えているんですけど、やっぱり毎日毎日親子で水をやっていると、野菜の成長というのは毎日毎日見ていけるところがあるもんやけん、朝から「お父さん、キュウリのべらいふとうなっとるばい」というふうでして、一番下の子が起こしに来るぐらいのところもあるし、そういうふうにして毎日観察できるというのも本当にいいことだなと。

ただ、こういうときに私の子たくさんというのが役に立つというか何というか、やっぱり年齢よっての興味の持ち方は物すごく違うわけですよ。そこは性格的なものももちろんあるとは思いますが、上の子は一切知らんふりするわけですよ。ばってん、どちらかといえば、2年生の子とか保育園に行きよる子というのが一生懸命になってするぐらいであって、本当にいい企画であって、小さい子どもさんほど経験させる必要があるなど、効果は大きいなど。そこにやっぱりお父さんが入らんといかんなど、お母さんじゃいかんなどという感覚でいるわけでありませう。

各家庭ももちろん、いろんな皆さんの家庭もそうだと思います。学校でもそういういろんな活動というのがあっておるわけで、改めて共感する次第であります。小さいころから経験させるというのが本当に必要だなと。そうせんぎんた私んごたる大人ができ上がってしまうということもありますので、これは広く広報を行って、さらに充実したものにしていきたいなと。

先ほど部長の答弁の中にはありませんでしたけど、「元気たけおっ子物語」ですか、ブログ等もやられていますので、市民の皆さんもぜひこのブログを見て、どういうことをやっているかというのをぜひ考えてほしいなと思っております。

続いて、食については、今、武雄市で最も世間をにぎわわせているのがイノシシじゃないかなと思うわけです。武雄市にも行政視察等はイノシシで見えられるという方が多数あるというようなことを聞いております。

イノシシばかりじゃなくて、若楠ポークやキュウリとかチンゲンサイとか、本当に今まで武雄の看板食材というのがたくさんあったかと思うわけです。レモングラスももちろんあって、いろんな食材がある中で、別にイノシシとかレモングラスだけを考えておられるわけじゃなかとですよ。とにかく全体を考えられてのいろんな施策だと思うんですけど、これについて、どのような位置づけというか、考えをお持ちなのかをお聞かせください。



議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私たちの企画は、まず多聞第一であります。これは再三答弁を今までしてまいりましたけれども、やはり京野菜が何でもここまで席卷をしたのかなと思ったときに、これは小池議員が私の100倍ぐらい詳しいと思いますけれども、加茂なすですね、最初、京野菜の出発点は加茂なすなんです。これが実際売れ始めてきて、その次に京人参がきたりとか、京かぼちゃがきたりとか、何でもかんでも「京」ばつけんさるわけですね。それで、京野菜というのは、隣町の京野菜というブランドがつかんものよりも2倍から3倍で売れるというのに非常に私たちは感銘を受けました。ああ、こうなんだと。ですので、レモングラスはまず基幹商品です。レモングラスで武雄に注目を集める。これはいろんな議員さんたちがいい悪い評判をしていただきましたので、これも宣伝になっています。それで話がやってきて、そこにいろんな農産品にレモングラスだけじゃ食っていけません。ですので、例えば、山内町のチンゲンサイであるとか、黒米であるとか、橋下の小麦であるとか、橘の献上米であるとか、さまざまところに今関心が向かっていきよるわけですね。だから、そういった意味で、レモングラスということについていえば、それは一つのきっかけになっています。

ですので、今後我々とすれば、やっぱり武雄野菜というか、佐賀野菜というか、肥前野菜というか、そういうふうブランドをつくる必要があるんだろうなというふうに思っています。京野菜の次は私たちの野菜、やしゃーというふうに思っていますので、ぜひそういった意味でのブランド化に対する御理解をいただければありがたいというふうに思っております。そういう意味では、レモングラスはきっかけであって、本当に売れるものは、市民の皆さんたちが一生懸命つくられておる野菜を1円でも2円でも高く売ることが我々の最大の目的でありますので、これまで以上にいろんな野菜であるとか、あるいは若楠ポークであるとか、佐賀牛であるとか、乳製品であるとか、1円でも2円でも高く売れるようにブランド化を推し進める必要があるだろうというふうに認識をしております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

ブランド化、まさにそうだと思います。そのブランド化の中で、先ほどのようなそういった農産品を直接ブランド化するというのももちろんいいことでしょう。イノシシ肉についてもそうだと思います。最初、私はイノシシ肉を見ていて、もうイノシシ肉を完全にブランド化していくのかなと思ったら、いろいろ調べていく上で、車で移動しているときでもそうですけど、やっぱり「イノシシ肉」とのぼり旗も結構どこにでも立っておるわけですね。全国的にインターネットで検索しても、やっぱり「イノシシ肉」というふうな検索をすると、ベ

らっといういろいろ全国各地でも売られているわけであって、そういう中でも、やっぱりこのイノシシをPRしていくというか、武雄のほかの農産品もそうですけど、考えていく上で、やっぱり看板になるメニューというか、そういうのも必要になってくるんじゃないかなと思ったわけです。

武雄に行くと、これを使ったこれを食べられるというようなところに、やっぱりそういうPRも必要な中で、そんな中、先日、イノシシ肉を使ったししリアンライスが誕生したところであります。私は個人的に待ち望んでいたものが一つ誕生したなという感覚を持っており、市民の皆さんの頑張りによって武雄を広く、これを使ってもまたPRできるんじゃないかというような感覚を持っております。すかさずファストフードにできんやとか、駅弁にできんやとか、全然素人感覚で適当にいろいろアイデアを自分でも話をして、それはできん、それはおもしろかとかとって結構いろんな話をさせていただいたんですけど、こういう市民の皆さんの取り組みをもっと促進するべきであって、旅館、ホテルとかにもぜひ取り組んでほしいなということを考えているわけですけど、その中でも、やっぱりまだイノシシ肉というのが価格的にも余り折り合いがつかないというようなところを聞いております。これについても、どのようにお考えか御答弁願いたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

イノシシについても大分詳しくなってきました。まず、ちょっと私が完全に誤解していたのは、この季節のイノシシはおいしくないということを知っておったんですが、これは古川康知事の計らいで、きょう佐賀新聞であるとか載ってあったと思うんですけども、二千数百頭とれたということで、それを今、食肉として活用していたら、意外や意外、おいしかわけですね。私もおいしゅうなかと聞いておったけんが、とって多分だめやろうなとは思ってました。しかし、おいしいと。さらに量がとれて、さらに今よりもおいしくなるのが11月過ぎなんですね。脂も乗っておいしくなるというふうに聞いていますので、そういう意味でいうと、量が結構はけるということになると価格は必然的に低下していくということになるかと思いますが、ただ、物すごく武雄のイノシシについては問い合わせが多いです。これもうちの戦略ですけども、やはり、いのしし課というネーミングを使ったのが第一。これはすぐ「朝ズバツ！」に載りました。課長は、いのし課長と呼ばれています。

そういうことで、やっぱりネーミングの与える役割ですね、これが物すごくきいた。それとまた、「やまんくじら」という淵さんがやられている、これもネーミングがやっぱりきているわけですね。それで、全国至るところにイノシシとありますけれども、イノシシの名産地は全国で2カ所と言われています。1つが丹波篠山、1つがこの武雄であります。（発言する者あり）と僕は思っております。

そういうことで、話はそれましたけれども、武雄市商工会のイノシシ肉のししリアンライス、これが本当に私も感激をしています。これは恐らく爆発的にまた広がるというふうに思っています。そして、これはレモングラスに関係すると、レモングラスのイノシシしゃぶですよね。これも今試験的に各旅館につくっていただいて好評をいただいているようです。これも恐らく丹波篠山のぼたん鍋を上回る鍋になるかもしれない。

それともう1つが、今思っているのは、やっぱりイノシシの場合は安定供給ができないんですね。とれたときに加工するということになりますので、ぜひ私としては若木の若楠ポーク、それと佐賀牛、それとイノシシで、武雄三枚肉物語とか、そういうふうにして、それを鍋にすると。だんだん話が長くなってまいりましたが、私が以前、中国へ総務省時代に出張したときに、いろんな火鍋というんですかね、辛い鍋は必ず肉は何種類かありました。そこにイノシシがあったかどうかはわかりませんが、そういう意味で、一緒に売り出していくということで、ぜひそういう鍋であるとか、イノシシだけじゃなくて、若楠ポークとか佐賀牛も巻き込んだ上での展開を図っていく、これが武雄のこれからの観光戦略の食戦略の柱になっていくのではないかなというふうに思っております。

そういう意味で、私が感謝しているのは、武雄はブログを持っている人が非常に多くて、発信力も強い。その方々が、上田議員を含めて、ししリアンライスであるとか食育寺子屋ということを盛んにアピールしていただいている、これが今の武雄の元気があると、食についても。あることを支えていると思いますので、ぜひ市民の皆さん方におかれても、イノシシを食べた場合におかれては、ブログを持っているお方はぜひまた発信をしていただければありがたいと、このように考えております。

最後になりますけれども、九州知事会で知事さんたちが一番感激したのはイノシシのみぞれ煮、それをお茶漬けにして最後食べられたそうなんです。それが一番おいしかったということをお国原知事の代理の副知事がおっしゃっていました。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

本当そうですね、ぼたん鍋等にも対抗するようなレモングラスのしゃぶしゃぶとか、さっきのししリアンライスもそうです。そういうふうにして、やっぱり武雄をPRしていくというのは絶対必要なことじゃないかなと思うわけであって、食について、武雄市には以前、食育アドバイザーとして服部栄養専門学校の服部幸應校長がおられたわけではありますが、この方の今の立場というか、どうなっているのかなと。先生のホームページをのぞいてみたら、武雄市市政アドバイザーというのはまだ記載をされてあったわけですけど、現在どうなっているかをちょっとお伺いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

服部幸應先生とは大阪時代におつき合いを始めさせていただいて、食育についていろんな御指導をいただいて、個人的なつながりから市政アドバイザーに就任をしていただきました。ただ、これは服部さんはただでも幾らでもいろんなPRをやるよとおっしゃっているんですけど、これはやっぱりエージェンシーというか、個人でできない部分があるみたいで、そうなってくると、全面的に服部先生の写真を出すとか、いろんなこっちに来ていただくとなると、それは物すごい経費がかかるんです。数百万円単位でかかるんですね、服部先生の場合は。ですので、そういう意味からすると、今、武雄市も財源にそんなに余裕があるわけじゃもちろんありませんので、どんどんアピールするということについては、ちょっとやっぱりお金がかかる面では考えにくいのかなというふうにも思っておりますけど、ただ、服部栄養専門学校の皆さんたちとも個人的には話をしています。これが組織になると、どうしてもやっぱりお金が発生するんですよね。ですので、お金のかからない個人的な関係で今何とか場をつないでおります。

今、その部分よりも、服部さんというよりも、武雄の場合は既に、議員がさっき御指摘いただいたように、例えば、イノシシであるとか、レモングラス、もともとある山内の黒米であるとかという産品が前面に出てきていますので、そういう意味からすると、どちらかという、京野菜みたいな方法でどんどんアピールをしていきたいなというふうに思っております。もしほかにこれはという方がいらっしゃったら、ぜひ御紹介をいただければありがたい。お金のかからない方だと思っております。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

ちょっといろいろ考えていたところ、お金がかかるかどうかはわかりません。ちっとはかかるとかなと思うのは、武雄の特産品を服部先生に送りつけて、これを使って武雄ならではのメニューば考えてくれんやろうかと、そういう使い方というとおかしいですね、そういう相談の仕方というのはできんのかなと。2年前やったですかね、食育シンポジウムのときも早くシンポジウムに来ていただいて、そのときも大勢の皆さんが足を運んだかと思うわけですよ。そういうつながりがある中で、そういう特産品を服部先生に送って、武雄の看板メニューをいっちょどがんかつくってもらえんやろうかというぐらいの感じだったら、これにお金が発生するかどうかは私もちょっとわかりませんが。

B級グルメですね、全国大会が行われて、今度4年目ですかね。いろいろ各地ですっと行

われている中で、いろいろ調べていくところ、幸いまだ佐賀県からのエントリーというのが見当たらなかったわけですよ。そういう中で、ぜひ今後はそういうところにも武雄の看板メニューがB級グルメに出場となれば十分な観光素材になるかと思うわけですけど、これについて考えはどうでしょうか、御答弁願いたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

答弁いたします。

今、全国、例えば、久留米であるとか富士市でしたっけ、いろんなところでB級グルメのコンテスト、グランプリがあって、物すごい人が集まっておりますですよ。その中で、武雄もぜひ出展をしたいと思っております。どこに出すかということについては、一番インパクトのある大会に出そうというふうに思っていて、ただ、メニューについては、ししリアンライスになるのかで、ちょっと答弁はさきにいたしましたけれども、とんこつラーメンならぬ、どうもチョ骨ラーメンの開発も今また有志のラーメン屋さんでは進められているようですので、本当に満を持して出すことは十分、これだけ今注目が集まっていますので、武雄が出展しただけですごいビッグニュースになると思うんですよ。これをある新聞社の方からも私は追われています。ですので、恐らくそれがまたどんと出ると思いますので、それはぜひ御期待をいただければありがたいと思います。

それも今、本当に感謝しているのは、武雄市の商工会の皆さんたちが本当に一生懸命やられている。これは合併効果だと思っておりますよ。北方の商店街の皆さんたちと山内のもともとやられている方々がうまく合体をして、そして、食で今どんどんやっていこうというふうになられていますので、ぜひそのパワーをかりて後押しをしていきたいなど。それで、それ以外でも、いろんな個人でやっていきたいという方々から、いのしし課であるとか、レモングラス課とかにかなり問い合わせがあるようですので、どこがやっているかじゃなくて、一生懸命やっている方々を応援して、そういうステージに押し上げていきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

B級グルメの大会も十分な宣伝効果になると思いますので、その辺でぜひ考えていただきたいなと思います。

今度、日曜日には市民の皆さんが代表になってというところですね、ブログでも大分出ておりますので、武雄人倶楽部、私も在籍しておりますけど、武雄人倶楽部主催で「武雄を“食う”会」が開催されます。この目的というのは、昔からの食、今の食、これからの食、

とにかく武雄の食を食べて、これからの食を語り合おうというような目的で行っていますので、その辺もぜひそういう市民の人たちの活動というのは本当ありがたいなという気持ちを持っております。ぜひ食のPRというのも今後大事にしていきたいなというのをお願いして、一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。